

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	高齢者看護学概論		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 15時間	講師名	専任講師
学習目標	1.高齢者の身体的・精神的・社会的変化を知り、ライフステージとその健康課題を理解する。 2.老年看護の理念・目標を理解し看護の役割について考えることができる。 3.社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の保健・医療・福祉の課題を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1.老年看護学を理解するための基礎的基盤（老年看護の対象となる人々の特徴） 1)老年期の発達段階・発達課題 2)加齢による身体的、精神的、心理・社会的変化と特徴			講義 グループワーク
	2	1.高齢者を取り巻く社会 1)日本の高齢化の現状、高齢者を取り巻く事象 2)老年看護の目標と視点 3)高齢者を支える看護師の役割			講義
	3	1.高齢者を支える制度 1)高齢者にかかわる諸制度の成り立ちとその内容			講義
	4	1.認知症対策の動き 1)認知症高齢者の支援・政策 2.高齢者の権利擁護 1)高齢者の倫理的課題とその対策			講義 グループワーク
	5	1.老年看護に活用できる理論・アプローチ 1)高齢者の看護を行ううえで活用できる様々な理論やアプローチ 2)理論・アプローチの意義や活用方法（事例を通して）			講義 グループワーク
	6	1.生かし生かされる地域づくり 1)高齢者が安全かつ安心して希望を持って暮らせる地域 2)高齢者にとって、よりよい地域づくりのための多職種協働			講義
	7	1.老いる事、死ぬ事の意味と備え 1)老いの個別性や多様性を知り、総合的かつ全人的に捉える必要性 2.様々な生活背景を持つ高齢者を支える 1)高齢者看護の役割 2)老いを生きる事、そして死を受容した心のありよう			講義 グループワーク
8	終講試験				
評価方法	筆記試験：100%				
テキスト	老年看護学概論 南江堂 国民衛生の動向 厚生統計協会				
参考文献	1.ナーシンググラフィカ 高齢者の健康と障害 2.ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実践 3.ヌーヴェルヒロカワ 老年看護学 4.日本看護協会出版会 最新老年看護学第3版 5.医療情報科学研究所 なぜ？どうして？老年看護学第7版				
自己学習時間	30時間	事前・事後学習	<事前> ・可能であればご家族含め身近な高齢者と意識した関わりを持って講義に臨む事 ・テキストを熟読して講義に臨む事 <事後> ・臨地実習に活用できるよう、十分に復習をする事		

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	高齢者の生活援助技術		
開講時期	2年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	看護師 専任講師
学習目標	1. 加齢が生活に及ぼす影響について理解する。 2. 高齢者の健康・自立を支えるための基礎的援助を理解する。 3. 加齢に伴う高齢者の身体症状に対する援助方法を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1・2	加齢による機能変化が日常生活に及ぼす影響 高齢者体験—おむつ交換・陰部洗浄			演習
	3	老年看護の基本技術・ヘルスアセスメントと実際			講義
	4	高齢者の生活と看護—加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 1) 呼吸 2) 食事			講義
	5	3) 排泄 4) 動作と移動			講義
	6	5) 睡眠 6) 体温			講義
	7	7) 清潔 8) 性			講義
	8	9) コミュニケーション			講義
	9	高齢者に特徴的な症状と看護（講師：山浦史子 島田多恵子） 1) 起立・歩行障害 2) 感覚障害			講義
	10	3) 摂食・嚥下障害 4) 脱水 5) 低栄養			講義
	11	6) 皮膚掻痒感 7) 痛み 8) 褥瘡			講義
	12	9) 尿失禁 10) 便秘・下痢			講義
	13	11) 不眠 12) うつ 13) 寝たきり			講義
	14	14) せん妄 15) 転倒 16) 感染症			講義
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	老年看護学概論 南江堂				
参考文献	高齢者の健康と障害 ナーシンググラフィカ				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキストや文献、講義資料等を活用し、老生変化について学びを深める		

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	健康障害のある高齢者の看護		
開講時期	2年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	看護師
学習目標	1. 高齢者の健康障害の特徴と援助方法を理解する。 2. 治療を受ける高齢者の看護を理解する。 3. 高齢者に多い疾患の看護を理解する。 4. 高齢者の終末期の看護を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	高齢者に特有な症候と看護			講義
	2	薬物療法を受ける高齢者への看護			講義
	3	手術療法を受ける高齢者への看護			講義
	4	リハビリテーションを受ける高齢者への看護			講義
	5	受療形態に応じた高齢者への看護			講義
	6	認知症高齢者への看護			講義
	7	高齢者の尊厳を支える看護			講義
	8	高齢者の尊厳を支える看護			講義
	9	終末期の家族支援 家族介護者の生活支援			講義
	10	急性期の看護（胃がん）			講義
	11	慢性期の看護（COPD）			講義
	12	認知機能障害の看護（アルツハイマー病）			講義
	13	緩和ケア（大腸がん）			講義
	14	パーキンソン病の看護			講義
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	老年看護学概論 <南江堂> 老年看護学技術				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・ 事後学習			

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	高齢者看護学演習		
開講時期	2 年次	単位・時間	1 単位 30 時間	講師名	専任講師
学習目標	1. 高齢者の特徴を踏まえた事例による看護過程展開ができる。 2. 高齢者に対する基本的な看護技術が修得できる。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	事例を展開するための基礎的知識の確認（高齢者の特徴）			講義
	2	事例を展開するための基礎的知識の確認（解剖生理）			個人ワーク
	3	事例を展開するための基礎的知識の確認（疾患）			
	4	高齢者の特徴を踏まえた看護過程ができる（事例提示）			講義
	5	高齢者の特徴を踏まえた看護過程ができる（データベース作成）			グループワーク
	6	高齢者の特徴を踏まえた看護過程ができる（全体像作成）			
	7	高齢者の特徴を踏まえた看護過程ができる（看護計画立案）			
	8	高齢者の特徴を踏まえた看護過程ができる（発表）			
	9	カンファレンスの実際（カンファレンス計画書作成）			講義 グループワーク
	10	カンファレンスの実際（カンファレンス実施）			
	11	カンファレンスの実際（カンファレンス評価）			
	12	高齢者に対する基本的な看護技術が修得できる（事例の援助計画）			講義
	13	高齢者に対する基本的な看護技術が修得できる（援助実施）			グループワーク
	14	高齢者に対する基本的な看護技術が修得できる（援助評価）			
15	終講試験（事例に関する筆記試験）				
評価方法	1. 看護過程の展開（32%） 2. 筆記試験（35%） 3. 基礎知識（6%） 4. カンファレンス評価（8%） 5. 援助実施（8%） 6. レポート（5%） 7. 学習態度（6%）				
テキスト	1. 老年看護学概論 南江堂 2. 老年看護学技術 南江堂				
参考文献	1. ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 スーヴェルヒロカワ 2. 看護過程の解体新書 学研 3. 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 4. 根拠と事故防止からみた老年看護技術 医学書院				
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	<事前> ・看護過程を復習しておく事 ・文献等を活用し、高齢者に対する基本的な看護技術を予習しておく事 ・文献等を活用し、カンファレンスについて調べておく事 <事後> ・臨地実習に活用できるよう、十分に復習をする事		